

石川県立美術館だより

第502号 令和7年8月1日発行

BIJUTSUKAN
DAYORI

特別展 足立美術館所蔵

横山大観と北大路魯山人展 ―近代日本画の名品とともに―



横山大観《神州第一峰》(左隻) 1932年



北大路魯山人《於里遍長鉢》 1953年頃



北大路魯山人《九谷風双魚鉢》 1948年頃

いずれも足立美術館蔵

―特別展「足立美術館所蔵 横山大観と北大路魯山人展」より―

■ 雪舟と周文／実資が記した『小右記』と
源氏物語の世界【前田育徳会尊經閣文庫分館】

■ 古九谷・再興九谷／歌、ものがたり【古美術】

■ 特別展示 みんなでたのしむびじゅつかん
おおきい・ちいさい【近現代工芸】

■ 優品選【近現代絵画・彫刻】

■ 没後20年 脇田和【近現代絵画】

● 8月の行事予定

● アラカルト ただいま展示中

● 美術館でスケッチGO！

企画展(第7～9展示室)

特別展 足立美術館所蔵 横山大観と北大路魯山人展

—近代日本画の名品とともに—

主催／足立美術館展実行委員会(石川県、石川県立美術館、北國新聞社) 特別協力／公益財団法人足立美術館

後援／金沢市、石川県教育委員会、一般財団法人石川県芸術文化協会、NHK金沢放送局、北陸放送、テレビ金沢、北陸朝日放送、石川テレビ放送、金沢ケーブル、エフエム石川、ラジオかなざわ・こまつ・ななほ

7月5日(土)～8月17日(日) 会期中無休

学芸員の眼

北大路魯山人は、陶芸の器で有名ですが、昭和10年(1935)頃から漆器の制作もおこなっています。制作といっても、魯山人は漆器に関わる専門的な知識をもって、材料を指定したりデザインを手がけたりするプロデューサー的な立ち位置で携わります。実際に漆器の制作をおこなったのは、山中温泉の二代辻石斎ら石川の漆芸作家たちです。

例えば、本展出品の《日月碗 いくつか》は、おおらかな器体に黒漆を塗り、金・銀の丸い箔が互い違いに貼り付けられています。金の箔が太陽、銀が月をそれぞれ表しています。「いくつか」は、漆の技法で一閑張のことです。本作の場合は、器面に美濃紙が貼られ、その上に漆が塗られています。美濃紙の皺などが絶妙な質感を出していて、温かみのある碗となっています。



北大路魯山人《日月碗 いくつか》 1945年頃

【観覧料】

一般	1,400円 (1,100円)
中高生	800円 (500円)
小学生	600円 (300円)
* (一)内は20名以上の団体・当館友の会会員	
* 2階コレクション展観覧料を含む	
* 身体障がい者・精神障がい者保健福祉・療養手帳をお持ちの方、またはミライロIDをご提示の方および付き添いの方1名は観覧無料	

7月5日(土)の開幕以来、多くのお客様にお楽しみいただいている本展も、いよいよ会期が残り約2週間となりました。

横山大観をはじめとする近代日本画の巨匠と、器や書など様々な分野で名品を残した芸術家、北大路魯山人の作品を合わせて、92点の作品をご覧いただける展覧会です。近代日本における芸術的個性を、足立美術館が誇る名品の数々からお楽しみいただけます。この機会をお見逃しなく。

【関連行事】

■ギャラリートーク

* 要観覧料、申し込み不要

日時…会期中毎週水曜日 13時30分

(約1時間程度)

会場…石川県立美術館 企画展示室

8月6日は横山大観などの絵画作品、8月13日は北大路魯山人について当館学芸員が解説をします。

■足立美術館庭園の紹介映像の上映(約15分)

会期中2階VRシアターにて、足立美術館が誇る四季の庭園の紹介映像を、左記の時間に上映しています。

- | | | |
|----------|----------|----------|
| ① 11時30分 | ② 11時50分 | ③ 12時10分 |
| ④ 13時30分 | ⑤ 13時50分 | ⑥ 14時10分 |
| ⑦ 15時30分 | ⑧ 15時50分 | |
| ⑨ 16時10分 | | |

■早朝・夜間開館

・早朝開館(8時30分より)

8月17日(日)までの土・日・祝日

・夜間開館(19時まで、展示室への入室は18時30分まで)

8月16日(土)までの金・土曜日



横山大観《無我》 1897年



北大路魯山人《かに平向 六人》 1959年頃

※いずれも足立美術館蔵

古美術(第2展示室)

古九谷・再興九谷

5月31日(土)～8月17日(日)

前田育徳会尊經閣文庫分館

雪舟と周文

7月5日(土)～8月17日(日) 会期中無休

特集「雪舟と周文」を紹介する第2弾。今回は、認知心理学から水墨画を考察します。現在展示中の重要文化財《四季花鳥図》をご覧いただければ、お分かりの通り、花鳥画は雪舟の得意とする画題です。しかし、雪舟といえは水墨画、それも山水画を思い浮かべる人も多しはず。実際、「雪舟筆」もしくは「伝雪舟筆」とされる国宝6点のうちの4点、重要文化財は19点中11点が水墨山水画です。

水墨画では、墨一色の省略された形や濃淡だけで、深山幽谷などの風景を表現します。これは、認知心理学でいう「パレイドリア現象」との関係が深いと推察できます。「パレイドリア現象」とは、雲のかたちや木目模様が、動物や人の顔に見えたり、満月にウサギの形を見つたりする現象です。人間の脳は不完全な情報を、記憶や経験から想像し補い、意味を見出そう

とするのです。

たとえば雪舟の有名な国宝《破墨山水》を参考に論じますと、わずかな墨の濃淡だけで、そこに広大で深遠な空間を感じることが出来ます。筆先の墨と水分を撥ね散らしただけの運筆が、人の脳に働きかけ、意味を生み出すのです。ここには文化的なスキーマ(概念)が作用しています。東洋的思想を知る者にとって、余白は無や空間として認識されますが、西洋文明のもとで育った人には、抽象的な表現にしか見えな

いこともあります。今回展示の花鳥図は破墨山水とは逆に、しっかりと描きこんだ表現がされています。伝雪舟ではありますが、画題雪舟の多様性を謳う佳品といえるでしょう。

5月末から始まった『古九谷・再興九谷』の特集展示は、8月17日にて終了となります。今号の美術館だよりでは、宮本屋窯・粟生屋源右衛門・小野窯・松山窯・永楽和全の作品を紹介します。

宮本屋窯は、天保2年(1831)、宮本屋宇右衛門によって開かれました。絵付けを行った飯田屋八郎右衛門は細密描写に優れ、その画風は「八郎手」「飯田屋」と呼ばれます。《赤絵琴棋書画瓢形大徳利》には、唐子が囲碁を楽しむ様子が描かれます。

粟生屋源右衛門は、楽陶を得意としました。明るい陶胎のうえに白化粧掛けと軟釉を流し、上絵の具で文様を施すのです。《色絵縞文二段重》は無銘ですが、太さと細さ、色の異なる縞模様で構成されています。現在の小松市小野町に開かれたのが、小野窯です。

赤絵細描が特徴で、それに黄緑・緑・紺青・紫などの絵具や金彩が施されています。《色絵楼閣山水図蓋物》は、繊細で優美な雰囲気から「姫九谷」とも呼ばれた小野窯を代表する作品です。

松山窯は、嘉永元年(1848)に大聖寺藩の命を受けて開かれました。《色絵桐鳳凰文平鉢》は、見込みの円窓の上部に鳳凰、下部に桐の葉と花が描かれています。

京焼の名陶工永楽和全は、慶応元年(1865)に大聖寺藩に招かれ、作陶と指導にあたりました。鮮やかで優美な作風が特徴です。《色絵金銀彩有職文二段重》は、器面に布をあてがい、その上から文様をあらわす「布目」という独自の技法が用いられています。



《色絵金銀彩有職文二段重》 永楽和金



重要文化財《四季花鳥図》 伝雪舟(左隻)

近現代絵画・彫刻(第4・6展示室)

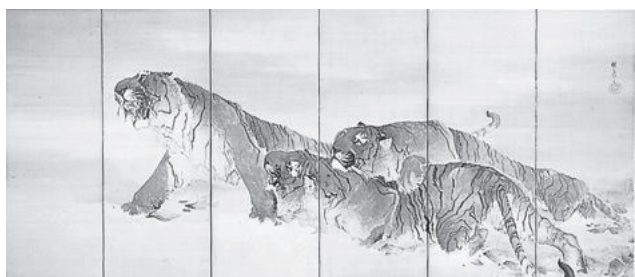
優品選

7月5日(土)～8月17日(日) 会期中無休

第6展示室の日本画分野では、開催中の特別展「足立美術館所蔵 横山大観と北大路魯山人展」にちなんだ近代日本画を展示しており、特に3点の屏風が見どころです。動物画の名手、木島櫻谷による《咆哮》、仏典、漢籍などをよくテーマにした橋本閑雪の《拾牛図》、そして理想主義の横山大観が描く中国風景《長江の朝》、何れ劣らぬ名品です。

第4展示室の彫刻分野では動物彫刻に焦点を当ててご紹介します。彫刻家には、動物をモデルに制作した作家が多くいます。身近にたくさん動物を飼ったり、動物園などで観察したりすることで制作につながった作家もいました。吉田三郎や木村圭二、長谷川八十や山本力吉など石川県ゆかりの作家たちが作り出す、様々な動物たちの姿をお楽しみください。

油彩画分野では、同室の彫刻に併せて生き物をテーマに作品を展示しています。そのうちの1点、宮本三郎の《かわいい》をご紹介します。初めにこの作品を見たとき、白い一枚のかわいいが目に入ってきます。そしてよく見ていくと茶色のかれいが反復して画面いっぱい描かれていることに気が付きます。画面に刻みつけた線や複雑なマチエールが施された作風は、抽象表現のピークであったこの時代の宮本の特徴であり、写実画家も「熱い抽象」の影響を受けずにはいられない時代を物語っています。



木島櫻谷《咆哮》(右隻)

近現代工芸(第5展示室)

特別展示 みんなでたのしむびじゅつかん おおきい・ちいさい

7月5日(土)～10月5日(日)

※8月18日(月)～22日(金)は休業

2期に渡り開催となります特別展示「みんなでのしむびじゅつかん おおきい・ちいさい」。親子で楽しむ美術館として夏休み中に親子で美術館に訪れて作品を見ることを楽しんでいただきたこと、こどもの視線を意識してはじまった特集展示でしたが、こどもだけでなく、親子だけでなく、様々な人々に身近なテーマで作品鑑賞を楽しんでいただきたこと、「みんなでのしむびじゅつかん」と冠も新しくなってお届けしております。

今回の特集は「おおきい・ちいさい」。かたちや模様の小テーマからおおきい作品、ちいさい作品が並んでいるところや、同じ作家が制作した大きな作品小さな作品が並んでいるところなど、一つの展示室内でいろいろな切り口で鑑賞を楽しめます。このよう

な特集ならではの展示で、新しい発見、感じ方の違いなど、一人ですっきり、一緒に来館された方と、作品にある「すごい」「おもしろい」の共有など、鑑賞を楽しんでいただきたと思います。

この夏は親子、祖父母と孫、家族で！ 秋は学校団体鑑賞(遠足行事等)や各種団体で！是非ご来館いただきたく、お待ちしております！



蓮田修吾郎《白銅浮彫「湖畔」》石川県立美術館寄託

前田育徳会尊經閣文庫分館 実資が記した『小右記』と 源氏物語の世界

8月23日(土)～10月5日(日) 会期中無休

近現代絵画(第3展示室)

没後20年 脇田和

7月5日(土)～8月17日(日) 会期中無休

日本の洋画界をリードした芸術家・脇田和（1908～2005）にとって、版画作品の制作もまた興味関心の尽きない重要な活動のひとつでした。戦前のベルリン国立美術学校での留学期には、エッチング、石版画、アクアチント、木口木版などの版画、彫刻、七宝、金工、写真、イラストレーションと多岐の技法を学び、日本の桜紙に摺った木版画『牧童と牛』は同校が買い上げるほどの実力を培いました。とりわけ自由な描線を写し取り、複雑な中間色の表現を可能としたリトグラフを好んで取り組み、留学後に版画制作でも著名なロシアの芸術家ワルワラ・ブノワや、シルクスクリーン印刷技術の開拓者・植田理邦などの指南を受けています。戦後には摺り師・女屋勘左衛門の工房を頼りに版画の制作を続

けました。1950年代には国際版画展への出品および米国での個展開催によって国際的な評価も受けるとともに、小磯良平らが開設に尽力した東京藝術大学の版画教室で駒井哲郎と講師に就任しました。描画、製版、摺りとまさに手仕事と摺り師の技術を重ねて生まれる創作は、脇田の職人的な「画工」への志向にも合っていたのでしょう。平成27年（2015）に一般財団法人脇田美術館より当館へご寄贈いただいた317点の作品のうち94点が版画作品であり、学生時代からの「満遍なく取り組む」という意識は、後年のコラージュを含む多様な制作にもうかがえます。瑞々しい遊び心にも富んだ脇田美術をご堪能ください。



脇田和《かたつむりと木の葉》

昨年大河ドラマを覚えていますか？そう「光る君へ」です。懐かしいですね。『源氏物語』の作者とされる「まひろ」こと紫式部が、「源氏物語」を書き記すに至った藤原道長を中心とする平安の貴族社会を描いたドラマでした。そのドラマにも登場した藤原実資による『小右記』を、今回の特集展示では紹介します。実資は、道長の権力が大きくなっても、媚びることなく公平な立場を貫き、やがて右大臣となつた人物です。『小右記』には、当時の政務や朝廷儀式の様子が記録されています。

特に、寛仁二年十月十六日、道長の三女威子が後一条天皇の皇后になつたことを祝う宴が行われ、道長が「この世をば 我が世とぞ思ふ望月の 欠けたる事も 無しと思へば」と詠んだのは、よく知られてい

ます。道長の歌に対し、実資は「御歌、優美なり」と答えたように、実資は道長のよき理解者でした。実は、道長は歌を詠む前に実資を呼び「歌を詠むつもりだから、必ずそれに合わせるように」と伝えていました。実資は「どうして反しましょうか」と答えたところ、「自らを誇った歌である」と道長は言ったといいます。『小右記』には、こうしたやりとりが記されています。

前田育徳会が所蔵する『小右記』は、数少ない写本の中でもっとも古く、平安から鎌倉時代に書写されたものです。京都の公家・三条西家にあつた『小右記』を、元禄年間に五代藩主綱紀が補修・整理するために預かり、その後前田家で保管するに至りました。



『小右記』甲巻二十一（部分）

優品選

8月23日(土)～10月5日(日) 会期中無休

第6展示室の日本画分野では、「月」をテーマに小特集展示を行います。俳句の世界で月といえば秋をあらわすように、日本において月と秋は密接な関係にあります。いにしえより日本人は、いえ人間は、地球に最も近い天体である月をどのように愛で、想像を膨らませて見てきたのでしょうか。当館所蔵の日本画で、月見をお楽しみください。

第3展示室では、目にも爽やかな油彩画を展示します。なかでも、高光一也の《チュールリー公園にて》は、色鮮やかなターコイズブルーで描かれています。水面には真っ白なバトー(舟)が浮かべられ、凱旋門が見られます。高光が捉えた光景は、現在も制作当時と変わりません。暑い夏の日に水辺の涼しさを感じられます。

また版画分野の作品もご注目ください。美術界で

の国際交流が盛んになる1950年代には、世界各国で次々と国際版画展が開催され、日本の版画は数多くの受賞を果たしました。そのことは、日本の美術界に日本の版画のレベルの高さと版画自体の文化的価値を認識させることになりました。国内外の展覧会で活躍した作家たちの版画作品を紹介します。

第4展示室の彫刻分野では、石田康夫《古代への想い》をご紹介します。本作のタイトルは、モデルとなった背の高い人物の、クレオパトラを連想させるような裾広がりのおかっぱの髪型から触発された、といえます。両手をやや広げて佇む伸びやかな肢体の女性像は、髪型も相まって古代彫刻にも通じるような、モニュメンタル性をもつ作風を感じさせます。



石田康夫《古代への想い》

歌、ものがたり

8月23日(土)～10月5日(日) 会期中無休

「やまとうたは、人の心を種としてよろづの言の葉とぞなれりける」

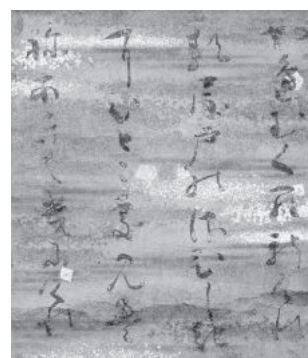
よく知られた紀貫之による『古今和歌集』『仮名序』の冒頭です。やまとうた、すなわち和歌は、漢詩に対して日本の歌をさし、四季折々の自然と人々の想いを三十一文字に凝縮して表現するものです。

優れた和歌は時代を超えて愛されます。『万葉集』や『古今和歌集』といったアンソロジーが編まれ、著名な歌人は「歌仙」と呼ばれて、その絵姿が作られるようになりました。また左右に分かれて歌の優劣を競う「歌合」が行われ、和歌は貴族文化の根幹をなすものとして詠み継がれていきました。

蓄積されていった和歌の言葉は、特定のイメージ

を伴った「名所」や「歌枕」を生み出しました。「吉野山」や「和歌の浦」、「住吉」が例として挙げられますが、実際の場所を訪れたことがなくても、それらを詠み込んだ数多くの和歌によってイメージが形作られ、そのイメージは絵画や工芸にも取り込まれていきます。

また物語の世界も和歌と深い関係にあります。『源氏物語』においても、要所に和歌が詠み込まれ、登場人物の気持ちを代弁し、また物語を動かす重要な役目をも果たします。こうした物語に基づく美術工芸作品は、それまでに詠まれ、紡がれてきた「歌」と「ものがたり」のイメージ世界を共有しているということができればよいでしょう。



藤原定家《小倉色紙(八重律)》

8月の行事予定

■のびのび鑑賞デー

作品について感じたこと、思ったことをお話ししながらコレクション展を楽しめる日です。

※ただし、通常の開館日のお客様同士の会話を制限するものではありません。

※のびのび鑑賞デーのご利用に、特別な手続きは不要です。

日時：8月10日(日) 8時30分～18時
(展示室への入室は17時30分まで)

会場：2階コレクション展示室

■対話で！作品鑑賞会

対話をしながら、作品鑑賞を行います。作品への知識はいりません。よく見て、おしゃべりしながら、ゆっくりと美術館で過ごしてみませんか？

日時：8月10日(日) 11時～11時30分 申込不要

集合場所：2階コレクション展示室前

定員：10名程度(先着)

料金：要コレクション展観覧料

※友の会会員は、会員証のご提示で無料

■企画展関連

特別展「足立美術館所蔵 横山大観と北大路魯山人展 -近代日本画の名品とともに-」関連行事

※各行事情報は、本誌2頁をご覧ください。

第7展示室

第54回日彫北陸展

8月21日(木)～25日(月) 会期中無休

※17時閉室

日本彫刻会は、我が国最大級の彫刻のみの公募団体として、彫刻芸術の発展に寄与し、会員一同研鑽を重ねています。本展は4月に東京都美術館で開催された第54回日彫展の中から理事長の作品をはじめ、石川県、富山県在住で会員・会友の作品・20歳以下の方を対象とする「U-20日彫展」で入賞・入選された作品約70点を展示します。会員・会友の作品の中には触れてみる事ができる作品も多数含まれています。さらに北陸日彫会特別企画の「発想展」では出品作のための素描等もご覧いただけます。これらの作品をご高覧賜り、私共の表現をお楽しみいただければ幸いです。

◇入場無料

◇連絡先

北陸日彫会事務局 東 誠

メール：hokurikuniccho@gmail.com

美術館でスケッチGO！

コレクション展示で作品を鑑賞するだけではなく、簡単な磁気式ボードを使って作品のスケッチしてみませんか。お連れ様やお子さまと一緒にいかがでしょうか。普段見ているだけでは気づかない作品の細かなことが、絵を描こうとみつけることによって見つかるかもしれません。また、真剣に作品をのぞき込むお子さまの姿に出会うかもしれません。

どなたでもお気軽にご参加ください。

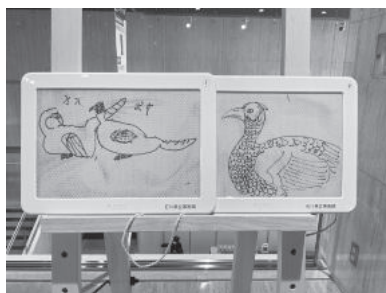
日時：8月11日(月・祝)

10時～11時頃(受付は10時30分頃まで)

会場：2階コレクション展示室

対象：どなたでも

*要コレクション展観覧料、申し込み不要

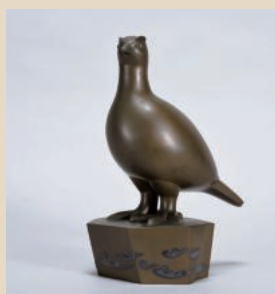


前回の「美術館でスケッチGO！」より

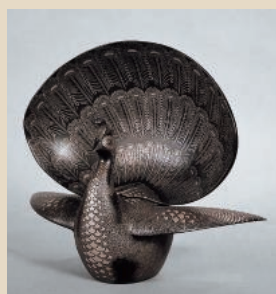
令和7年度友の会ツアー予告

本年10月下旬に友の会ツアーを開催します。九谷焼を存分にお楽しみいただくコースの予定です。特別ゲストによる今までにない魅力的なツアーを企画しております。詳しくは美術館だより来月号をご確認ください！

特別展示「みんなでたのしみびじゅつかん おおきい・ちいさい」より



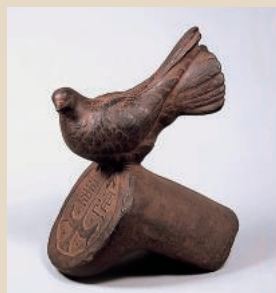
南部勝之進《雷鳥置物》



高橋介州《加賀象嵌孔雀香炉》



米沢弘安《金銀象嵌鶴香炉》



山田宗美《鉄打出鳩置物》

※いずれも石川県立美術館蔵

前号の「学芸員の眼」でも触れていたのですが、夏休み時期に開催する「おおきい・ちいさい」に関して展示を固めていくなかで、見た目におおきい・ちいさい作品だけでなく、よく似た大きさではあるのに重さの違いが気になる作品についても展示に加えたくなりしました。以前から気になっていた作品で、展示室後方の移動ケース横一列に鳥が並んでいるところがありますが、そちらです。残念ながら鑑賞者は作品に触れていただくことができないので、また感じどこの作品が重いのだろう？と想像力を働かさなければなりません。自分が展示をしながら実際の重さはどれくらいなのだろう？と、気になる作品

4点を、今回重さを計り、横一列で展示しました。こちらは似た大きさで重さが「重い・軽い」コーナーとなります。この鳥たちは金属を素材としていますが、作り方が違います。金属を溶かして型に流し込んだ鍍金、一枚の金属板をたたいて伸ばして形をつくった鍛金、そして土台となる金属作品に違う色、種類の金属をはめ込んで模様を表現する象嵌。成型するにあたってずっしりと固めていったもの、はめ込んでいったもの、たたいて広げていったもの。実際に展示室でよくみて確かめていただきたいと思います。そして、実際の作品の重さですが……展示室にてご確認ください。

次回の展覧会

令和7年8月23日(土)
～10月5日(日)
会期中無休

第3・4・6展示室	第5展示室	企画展示室
優品選 【近現代絵画・彫刻】	特別展示 みんなでたのしみびじゅつかん おおきい・ちいさい 【近現代工芸】	北斎・広重 大浮世絵展 9月6日(土)～10月5日(日)

前田育徳会 尊経閣文庫分館	第2展示室
実資が記した『小右記』と 源氏物語の世界	歌、ものがたり

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 370円(290円)
大学生 290円(230円)
高校生以下 無料
※()内は団体料金
8月4日は第1月曜日より
コレクション展観覧無料の日

開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後6:00

8月の休館日は
18日(月)～20日(水)

石川県立美術館だより
第502号(毎月発行)
2025年8月1日発行

〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel: 076(231)7580
Fax: 076(224)9550
URL: <https://www.ishibi.pref.shikawa.jp/>

石川県立美術館は電源立地地域対策
交付金を活用して運営しています。

静岡県掛川産 100% 粉末緑茶

高級煎茶

30本入 特別価格 990円(税込)

栄誉を丸ごと粉末に。手軽な健康習慣。1本あたり約30円! 500mLのペットボトルと比べると断然お得!
※送料はご購入者様負担です。後払いの場合は全国一律185円(税込)。その他の決済の場合はお問い合わせください。

お支払いは、代金引換(手数料265円が発生します)または後払いです。後払いの場合は、後日お届けするお振込票にてお支払いください。(全国のコンビニエンスストア・ゆうちょ銀行・郵便局でお支払い可能です)注文受付後、7日以内に商品を送送いたします。返品・交換は商品到着後8日以内に必ずご一報の上、返送してください。(送料はお客様負担となります。一度開封した商品の返品・交換はお断りしております)※お振付した本人情報は、商品の発送とサービスのご案内のために使用させていただきます。

お注文は必ずお電話で! ☎050-1880-8344

受付時間 9:00-18:00 月～金(祝日は除く)
株式会社R.オプティマイズ
〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-3-13
西新宿水園ビル6F